

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【馬宮東小学校】

| ⑥        | 次年度への課題と学力向上策   |  |
|----------|---|--|
| 知識・技能    | 国語では、2年連続で「言葉の特徴や使いに関する事項」が課題である。R7年度さいたま市学習状況調査「国語の授業の内容はよくわかりますか」の質問の肯定的な回答の割合がどの学年も市平均より低かったため、指導と評価の一体化により実態を踏まえた授業を行う。<br>算数では、「数と計算」領域の他に、「かさの単位」「時刻の求め方」などに課題がみられる。学年で話し合い毎週月曜日のミヤマタイムの内容の精選を行ったり、学校全体でミヤンカードの取組の見直しを行ったりしていきたい。 |  |
| 思考・判断・表現 | R7年度さいたま市学習状況調査「主体的対話的で深い学び」の質問分類の肯定的な回答がほとんどの項目・学年で市平均より上回っている。しかしその児童の意識が学力向上の結果となって表れているとは言えない。次年度も「学びのポイント(じ・し・や・く)」の視点に基づく主体的な学びの授業改善に取り組み、授業研究会を実施する。加えて教員一人ひとりが確実に授業改善に取り組み、その実践をベースに成果と課題が言えるような取組を行いたい。                        |  |

| 今年度の課題と学力向上策 |  |  |
|--------------|--|--|
|              | 学習上・指導上の課題   | 学力向上策【実施時期・頻度】   |
| 知識・技能        | <学習上の課題><br>国語「言葉の特徴や使いに関する事項」<br>算数「数と計算」<br><指導上の課題><br>個人差が大きく、また基礎学力の定着が十分ではない。          | ⇒漢字ドリルや計算ドリル、プリント、タブレットのドリルパーク等を活用して週1回前や授業の最初に反復学習を行う。授業の最初に前時の振り返り等を行う。【週1回・授業時】<br>家庭と連携して、学習習慣と生活習慣の形成・見直しを目的とするミヤンカードの取組を実施する。【学期に2～3回、1週間】 |
| 思考・判断・表現     | <学習上の課題><br>国語「書くこと」<br>算数「数と計算」「変化と関係」<br><指導上の課題><br>「学びのポイント(じ・し・や・く)」の視点に基づく授業改善に取組中である。 | ⇒「学びのポイント(じ・し・や・く)」の視点に基づく授業改善を進め、主体的な学びを充実させる。ICTを効果的に活用し、児童が「できた」「わかった」と実感できる学びを推進する。【毎時間】<br>指導訪問の他に授業研究会に全職員が参加する。【年に3回】                     |

| ⑤        | 評価(※) | 調査結果 学力向上策の実施状況   |
|----------|-------|---|
| 知識・技能    | B     | 毎週月曜日の業前時間に基礎的な学習内容の反復練習に取り組み、知識・技能の定着を図ることができた。授業の最初に前時の振り返り等を行い、基礎的・基本的事項の定着を図った。<br>学習習慣と生活習慣の形成・見直しを目的とするミヤンカードの取組を年間を通じて実施し、家庭と連携することができた。   |
| 思考・判断・表現 | B     | 指導訪問の他に、「学びのポイント(じ・し・や・く)」の視点に基づく授業改善のために、全職員が参加する校内授業研究会を3回実施し、教員一人ひとりの資質向上につながった。ICTを効果的に活用する授業づくりのため、職員のICT研修を3回実施した。R7年度さいたま市学習状況調査「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。」の質問において肯定的な回答の割合が市平均より高かった。 |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

| ②        | 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)  |  |
|----------|---|--|
| 知識・技能    | 国語では、昨年同様に「我が国の言語文化に関する事項」と「言葉の特徴や使いに関する事項」に課題がみられる。特に「漢字を文の中で正しく使う」の問題の正答率が低かった。漢字など基礎・基本の定着に引き続き取り組んでいく。算数では、「台形の意味や性質について理解しているかどうか」「平行四辺形の性質を基にコンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうか」などの正答率が低かった。図形分野に課題があるとされる。理科では、「身の周りの金属について電気を通すか磁石に引き付けられるか」の正答率が特に低かった。既習事項を使って学習を進めていくようにしたい。 |  |
| 思考・判断・表現 | 国語では、「書くこと」の領域に課題がみられた。「自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうか」の正答率が低い。「読むこと」の正答率は高かった。算数では、「10%増量の意味を解釈し何倍になっているかを表すことができるかどうか」の正答率が低く、無回答率も高かった。また測定分野の正答率が低く、算数的活動の充実を図りたい。理科では、「結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうか」の正答率が低かったため、結果から考察できるように日頃の授業を組み立てていきたい。                                  |  |

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

| ④        | さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)   |  |
|----------|--|--|
| 知識・技能    | 国語では、どの学年においても「言葉の特徴や使いに関する事項」の領域が市の平均正答率を下回った。特に「文の中の主語と述語の関係を理解することができる。」の問題の正答率が、どの学年も低く課題がみられた。漢字学習では、「書く」活動を確実にし、基礎・基本の定着を図る必要がある。<br>算数では、昨年同様に「数と計算」領域の正答率が低い。3年「小数の数の構成について理解している」4年5年「小数の減法の計算をすることができる」6年「分数、小数、整数の混合した計算をすることができる」の問題の正答率が市の平均正答率より低く、小数の知識・技能について課題がみられた。小数について仕組みや位取りを理解し、繰り返し計算練習する必要がある。  |  |
| 思考・判断・表現 | 国語では、どの学年も「話すこと・聞くこと」の領域が市の平均正答率を下回り、課題がみられた。3年4年「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。」5年「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる」6年「目的や意図に応じ、話の内容を考え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。」の問題の平均正答率が特に低かった。目的意識・相手意識を考えさせながら指導していく。「読むこと」については、市の平均正答率より高い学年が多かった。<br>算数では、「示された場面において、状況から正しく立式することができる」の平均正答率が市の平均正答率より特に低く、文章題に課題が見られた。課題文を読み取り、正しく立式ができるように支援・助言が必要である。 |  |

| ③        | 中間期報告 |   | 中間期見直し         |
|----------|-------|---|----------------|
|          | 評価(※) | 学力向上策の実施状況  | 学力向上策【実施時期・頻度】 |
| 知識・技能    | B     | 毎週月曜日の業前時間に漢字ドリルや計算ドリル、プリント、タブレットのドリルパーク等を活用して、反復学習を行うことができた。<br>家庭と連携して、学習習慣と生活習慣の形成・見直しを目的とするミヤンカードの取組を実施することができた。今年度は読書の記録をデータ化し児童の励みにつなげるようにした。 | 変更なし           |
| 思考・判断・表現 | B     | 1学期に指導訪問を実施し、「学びのポイント(じ・し・や・く)」の視点に基づく授業改善を進め、主体的な学びを充実させるきっかけの授業改善研修となった。学びの指標における授業でのICTの活用も昨年度の同時期に比べ進んでいる。全職員が参加する授業研究会は今後3回実施する予定である。          | 変更なし           |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)